

静岡県建設産業ビジョン(案)パブコメ結果について

資料2

No.	該当頁	意見の概要	意見に対する県の考え方	修正
1	全体	<p>【今後の建設業の持つ意義や果たすべき役割の提示】 2025年の国土交通省の技術系職員の採用状況について、2年連続して定員割れとの報道がありました。静岡県交通基盤部の現状は判りませんが、離職の状況も含め同様の状況ではないではないかと思えます。これは行政職員が「誇り」や「やりがい」を感じ、良い意味で仕事を楽しまないからではないでしょうか？ また、建設業では、民間建築工事が好調な一方で、公共土木工事は設計労務単価の13年連続の引き上げや物価高騰などへの対応もあり、工事ごとの採算性は良いものの工事量の減少により、将来性に不安を感じています。建設産業は、人々の安全・安心を守り、暮らしの利便性・快適性を向上させる、無くてはならない産業です。ビジョンの基本理念に「産学官の協創」を謳っていますが、このような建設業の持つ意義や担う役割、そして地球温暖化による気候変動や少子高齢化による人口減少などの社会課題に対し今後果たすべき役割などについて、産学官が連携した取り組みが示せると良いと思います。</p>	<p>今回の建設産業ビジョンでは、より多くの皆様の目に触れやすいよう、文字数を少なくシンプルにするともに、「今後10年間のビジョン」+「4年間のプラン」に絞った構成としております。 一方で、御意見にありますとおり、地域を守る建設産業は、なくてはならない産業であり、その魅力や社会的役割の重要性等については、静岡どぼくらぶの取組などで引き続き周知してまいります。 さらに、P28記載の「共創の場」等を活用し、より効果的な連携の取組等を検討、実施してまいります。</p>	
2	P20	<p>【担い手の確保】 P20では、「女性」や「犯罪を犯した者等」、「高齢者」、「外国人」について記載されていますが、そもそも高校・大学で土木・建築を学んだ新卒者の確保策(工業高校や大学の学科の維持も含めた)も記載すべきではないでしょうか。</p>	<p>土木関係学科への進学や、建設産業への就職に当たっては、親の意見が大きく影響していると進路指導を担当する教員等から意見をいただいておりますことから、P22の施策パッケージ2に記載している、「就職前の子を持つ「親世代」への建設産業理解促進」等に取り組んでまいります。</p>	
3	P26	<p>【生産性の向上について】 担い手不足や経営の安定化のために生産性の向上が必要であり、「群マネ」のような取組やDXの推進等が必須です。しかし、P26に記載の「重点目標Ⅲ 生産性向上実現」に関する事項の具体性が乏しいと思います。</p>	<p>P26では、建設産業の経営の安定化の取組について記載していますが、経営の安定化のためには、P23,P24に記載している「重点目標Ⅲ 生産性向上実現」が、御意見のとおり必須と考えております。取組内容等はP23,P24と重複することから省略いたしました。下記のとおり修正いたします。 修正前■ 建設企業の事業の効率化を図るため、「重点目標Ⅲ 生産性向上の実現」で掲げるプランを推進 修正後■ 建設企業の事業の効率化を図るため、P23,24で掲げる「重点目標Ⅲ 生産性向上の実現」のプランを推進</p>	○
4	P30	<p>【指標について】 参考資料で、重点目標Ⅳの指標を「売上高経常利益率」としていますが、東海四県と比較しますと静岡県の「自己資本比率」や「一人あたり売上高」が劣った状況にあり、これらの改善も指標に加えた方が良いのではないのでしょうか。</p>	<p>指標につきましては、現行の「静岡県建設産業ビジョン2019」で示した指標のうち、目標に達していない等、今後も引き続き推移を注視すべき代表的なものについて、重点目標毎に各1指標を設定することとしました。 なお、いただいた御意見の「自己資本比率」や「一人あたり売上高」について、指標としての設定はいたしません。が、推移等を見守ってまいります。</p>	